

## 平成 26 年度第 1 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| ■日    | 時：平成 26 年 5 月 26 日（月）18：30～20：35 |
| ■場    | 所：市役所西棟 4 階 412 会議室              |
| ■出席委員 | ：8 名（欠席 1 名）                     |
| ■事務局  | ：高齢者支援課、子ども育成課、市民社会福祉協議会         |

### 1 開会

### 2 配布資料確認

事務局より配布資料の説明

### 3 議事

#### （1）平成 25 年度運営実績報告

【事務局】平成 25 年度運営実績についてご報告します。3 ページの運営費補助金額算定一覧表の一番右側の欄が平成 25 年度の補助金の確定額です。1,000 万円に満たないのが、川路さんちときんもくせいです。こちらは、加算等を足しあげた結果、1,000 万円に満たなかったということです。1 ページの表は、各施設ごとの収支状況の一覧表です。川路さんちは、前年度に比べ、赤字額が約 57,000 円の増となってしまいました。これは人件費の増が影響しているものと考えております。月見路は、405,000 円の黒字となりました。昨年から 30 万円以上黒字が拡大しておりますが、管理費が前年に比べ 30 万円減りましたので、これが影響しているものと思われます。関三倶楽部につきましては、3,441 円という若干の赤字となりました。運営団体からの補助は、24 年度は 34 万円だったところ、25 年度は 4 万円だけとなっておりますので、そういう意味では、補助金の枠内での運営を進めていただいていると思っております。若干の赤字については、繰り越しの中で補填されております。そへらの家については、前年は 17 万円の赤字でしたが、375,000 円の黒字へと転換しております。人件費の縮減が功を奏したと思っております。きんもくせいについては、補助金の実績精算額 10 万円とありますが、これは、認知症サポーターがスタッフの 80% 以上の場合加算されますが、77.8% に留まってしまったために、基準に届かず 10 万円の減額で精算となりました。花時計については、前年に比べ、収入総体は 347,000 円増加しておりますが、支出も同様に 358,000 円増加しており、全体で 278,000 円の赤字となっております。支出増の内訳は、事業費が 26 万円の支出増となっており、これが影響していると考えております。赤字は前年繰り越し分で補填されております。くるみの木は、収入は 11 万円増えてお

りますが、支出も 33 万円増えておりまして、結果的に 224,000 円ほどの赤字となっております。人件費や事業費の増が影響していると考えております。補助金の収支の状況については以上です。

【事務局】 あおばにつきましては、今年度収支差額が 713,953 円出ております。前年度繰り越しが 100 万円ございましたので、この分が市への返還金となります。以上です。

【事務局】 運営団体支援についてご報告します。市民社協では、高齢者施設に関して運営支援をしております。毎月 1 回スタッフ会議に職員 2 名で伺い、運営状況の確認、今後のイベントの相談などをお受けしております。そのほかに代表者会議の開催、年 2 回スタッフを対象としたスタッフ研修を開催しております。1 回目につきましては、季節がら毎年、食品衛生研修をしております。2 回目につきましては、今回は特に認知症の利用者が増えている状況も踏まえまして、認知症の方への接し方を学ぶという形で、一部ロールプレイングも使いながら研修を行いました。以上です。

【委員長】 それでは、このあと各施設の 25 年度の実績を伺いながら、新しい方向性を見出していきたいと思っています。

## ◇平成 25 年度運営団体実績報告ヒアリング

### 第 1 グループ（花時計、くるみの木、月見路、そ〜らの家）

【委員長】 お忙しい中、ヒアリングにご参加いただきましてありがとうございます。5 分間の実績報告と 10 分間の質疑応答を行います。では、花時計からお願いします。

【花時計】 花時計の 25 年度の事業ですが、運営理念のもと計画通りに遂行できたと思っています。曜日ごとのプログラムですが、講座講師のボランティアの方が 22 名いらっしゃいまして、そのうち最高齢の方が 87 歳です。皆さまのご協力のもとプログラムを無事に実行することができました。講座ご利用者の方で 90 歳以上は 7 名、最高齢は 95 歳です。皆さん女性ですが、どの方もとてもお元気で、ひとりで通って花時計にいらっしゃいます。そういう方々を間近で見ていると、少しお若い高齢者の方も「もっと私も頑張らなくちゃ」などと良い刺激を受けて、みなさんお元気の様子です。テンミリオンハウスの良い効果だと思っています。

利用者の方を地域別に見てみますと、高齢者の場合、81%が境南町の方、17%が境の方で、近くて通いやすいということで、お近くの高齢者が通ってきております。乳幼児親子の場合、若いママさんは少し行動範囲が広く、境南町の方が 50%、境と桜堤の方を合わせて 42%となっております。

25 年度の取り組みのひとつに、花時計のご案内を境南町全域にスタッフが手配りするというものがありましたが、境南町約 7,500 世帯のうち、4,000 世帯ほどに配りました。一戸建ては問題なく配れますが、マンションはなかなか難しく課題があるなと感じました。管理人さんに「公の施設のご利用のご案内です。」と申し上げても、厳しいというか断られた

り、怒られてしまうということがありました。通いの管理人さんの場合は、スタッフが再度、5時以降にポスティングに行くということもいたしました。今、人と人の支え合いや繋がりが叫ばれていますが、その前の段階でシャットアウトされてしまいました。こういった点が課題だと感じました。

お便りは昨年度初めて発行しましたが、3回発行しました。毎月発行するメニュー表と予定表と併せて、講座コースの先生のコメント、そのコースを利用している方のコメント等も記事にしましたので、利用者さんはとても関心を持って読んでいただけたと思っております。

花時計のスタッフはいつもホスピタリティの精神で利用者さんと接しておりますので、おもてなしの心で居心地の良い居場所の提供を第一にしております。また、利用者さんとの日頃の会話を非常に大切にしております。その中で利用者さんの環境やバックグラウンドがわかりますので、それぞれの方に合った一番良い方法で対応していると思っております。また、利用者さんもスタッフや利用者さん同士で話をすることによって、心を軽くして帰っていただいていると思っております。以上です。

【委員長】ありがとうございました。何か質問があればお願いします。

【副委員長】認知症の高齢者さんの数や割合はどのくらいですか？

【花時計】物忘れのある方はいらっしゃいますが、認知症であるという方の特定はしておりません。先日、91歳の方が非常に物忘れが多く、日赤の外來に行かれたということですが、認知症ではなく、年相応の物忘れということでした。花時計としては認知症のお申し出は受けておりませんし、数の把握はしておりません。

【副委員長】先程、認知症高齢者の方を受け入れているとおっしゃっていましたが、それは認知症とわかっていて受け入れているということではなく、いらしていただいても構わないということでしょうか？

【花時計】そうです。

【委員】講座の講師の方が、今22名いらっしゃって豊富なプログラムがあるということも魅力だと思います。講座の内容をどのように検討していらっしゃるか、また、講師の方をどのように探していらっしゃるかを教えてください。

【花時計】ご利用者の方が一人でもやりたいという方がいらっしゃれば、花時計がその方にとっての居場所となりますので、人数が少なくても続けています。途中で講師の方が亡くなられたときには他の方を探しています。

【委員長】在宅介護支援センターとの情報交換会はどのようなテーマで行っていますか？

【花時計】共催した事業の反省や、現状の確認、利用者さんの中に気になる方がいらっしゃればその方の情報、また在宅介護支援センターからの紹介いただいでご利用されている方もいらっしゃいますので、その後の経過報告等です。

【副委員長】講師の方で87歳の方がいらっしゃるということですが、年齢的な線引きは考

えていませんか？教える立場の方ですと、例えば耳が聞こえづらくなるなど、マイナス面はありませんか？

【花時計】謡曲の先生ですが、とてもお元気で、利用者さんも楽しんで参加されています。その方の生き甲斐の一つでもありますので、特に現段階では年齢に関係なく問題はないと考えております。他にもお習字等のお仕事もされていてとてもお元気な方です。

【委員長】ありがとうございました。では、次にくるみの木をお願いします。

【くるみの木】昨年 25 年度で一番大きなことは、26 年度からの運営の事業採択をしていたのだということです。

くるみの木では事業採択に際しまして、JSP という事業採択プロジェクトを立ち上げて、多方面からこれまでの事業を見直し、プログラム、ランチ、イベント等の充実を検討しました。メンバー一人ひとりが日頃行っている自分たちのサービスを見直すチャンスであり、この施設が地域の中でどのような役割を果たしているかを改めて考えるなど、5 年に 1 度見直すということは、運営をしていく上でとても有効なことだと思いました。

事業採択プロジェクトの立ち上げと同時に、私たちの担当地区である中町、御殿山の市民の方にアンケートを配布したり、利用者や講師の方々からは直接ご意見をお聞きする機会も設け、いろいろな声を伺うことができました。地域に 6,000 部配布したアンケートの戻りは 90 部ということで、評価委員会でも少ないとのご指摘を受けました。しかし、同時にチラシを配布したことで、それ以降チラシを見たという利用者が増え、25 年度は通年 7,000 人を超える利用者数にもつながったと思っています。昨年度の利用者は平均 24 名にもなりましたが、特に日中独居の方や、男性のご利用者がだいぶ増えているように思います。特にランチを毎日食べにいらっしゃる方の中にそういった方が多いと思います。食事に関しては、毎日 20 食作っていますが、最初の 1、2 年目くらいはスタッフが持ち帰ったり、わざわざ電話をして食べに来てもらったり、雨の日やプログラムのない日は余ってしまうこともありました。このところはお断りするような状況も出てくるほどです。くるみの木はカフェランチを設けておりますので、召し上がれないということはないようにしておりますが、本当に楽しんでいただいております。昨年度の報告ではありませんが、今年度から土曜日ランチを始めました。おにぎりとお味噌汁のセットを 10 食出していますが、毎回完売でありがたいことです。

また、5 年間を通してみて、元気になった方がたくさんいらっしゃるようになっております。半年に 1 回ほど握力のテストをしておりますが、データとして残してはおりませんが、現実的にペットボトルのふたが開けられるようになったなどの声を聞くことで本当に嬉しく思っております。

昨年はワーカーズの介護保険の利用者がくるみの木にいらしたり、反対にくるみの木から介護保険の利用者になった方もいらっしゃいます。5 年経って皆さんがだんだん変化し

ていく中で、一日一日を大事にして、くるみの木が地域に果たせる役割をよく自覚して運営していきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

最後に一言。開設 1 周年に植えましたくるみの木に今年実が付きまして。まだ本当に小さいものですが、すくすくと育っているところです。ありがとうございました。

【委員長】ありがとうございました。どなたか質問はございますか？

【副委員長】男性が増えた印象があるということですが、どのくらい増えたか、例えばランチでの割合などはわかりますでしょうか？

【くるみの木】日替わりランチ 20 食のうち毎日 5 食くらいは男性です。ほぼ毎日いらっしゃっている方が 1, 2 名、一日おきにいらっしゃっている方がそのほかです。くるみの木はプログラムなどを行う広い部屋と真ん中に喫茶の部屋がありますが、女性はだいたい皆さんでおしゃべりをしながら広いお部屋で召し上がっていますが、喫茶の部屋の方は男性 5, 6 人でいっぱいになっていて、メンズクラブのようになっています。独特の世界を作られて、おしゃべりをしながらお食事を召し上がっている風景が見られます。

【副委員長】ということは、男性の常連の方ができたということでしょうか？

【くるみの木】そうです。

【委員】男性の居場所づくりは難しいと思いますが、男性の方が増えた要因をどのように分析されていますか？また、男性が増えたことで対応を変更した点はありますか？

【くるみの木】もともとプログラムの中では、男性の利用は健康麻雀の方がほとんどでした。お食事がやはり魅力なようで、一人暮らしになった方が多いですし、そうでなくても奥様もたまにはご主人が外で食べてくれると嬉しいようです。女性の中で男性が一人というのは落ち着かない様子ですが、今は必ずどなたか男性がいらっしゃるので、そこで交流が生まれていることが要因だと思います。男性が増えたことで何かを変えたということは、今のところはございません。

【委員】介護保険の利用者さんでくるみの木を利用する方、また、逆にくるみの木の利用者が ADL の低下により介護認定を受けて、皆さんがサポートに入られるということがあると思います。今度要支援 1, 2 が介護予防給付から外されて市町村事業になりますが、テンミリオンハウスと介護保険事業者のノウハウを活かして、要支援の方向けのメニューやプログラムを検討されていますか？

【くるみの木】特にそのためのプログラムを考えているということはありませんが、常々あの辺の層の方が外に出て、テンミリオンハウス等を利用されることがどんなに良いか、ということを感じております。民生委員さんとも話をしていますが、出てきていただくきっかけをどうにか作り、続けていくことで介護度が下がるのではないのでしょうか？

【委員】わかりました。ありがとうございます。

【委員】利用者さんを見てみると、悪くならないという印象をお持ちだということですが、何が大きいと思いますか？データがあると良いのですが、食事や人とのつながり、体操な

ど、こういった要因が大きいと思いますか？

【くるみの木】くるみの木では自立生活体操を週に2回と隔週で1回やっていますが、その体操がとても理に適っていて、有効ではないかと感じています。あとはお出かけになってお話をされるのがこんなに皆さんを生き生きさせるのかというのは、私たちが毎日感じていることです。また、ご主人を亡くされた方が少しほろっとした時に、共感できるお仲間がいるということを発見されることもありますし、介護家族のひろばも非常に有効です。介護度が変わったかどうかははっきりとはわからなくても、この前までヘルパーさんが付いてきていた方が一人で来られるようになったなどの変化が見られます。

【委員長】認知症サポーター養成講座は、6月5日受講の7人を入れて26人ということですね。また、在宅介護支援センターとの情報交換会は、高齢者総合センターと本町とで合同でやってらっしゃるということですか？

【くるみの木】去年2回合同で行っています。その前までは別々に行っていましたが、高齢者総合センターの施設長からもやはり一緒やった方が良いというお話もあり、一昨年と去年は合同で行っています。

【委員長】ありがとうございました。では、月見路さんお願いします。

【月見路】5月14日にグループ撫子の総会がございまして、代表が横山に変わりました。本日は前代表の菊地から報告いたします。

2年目を事故なく無事運営を終えることができました。運営団体が変わったということで、運営開始前、地域や利用者の方には正直なところ期待よりも心配の方が先に立っていたようです。新人ということで受け入れていただきましたが、2年目によりやく実績を認めていただきました。これからは3年目ということで、地域の中での役割を担うべきところも出てくるだろうと考えています。今回の人事は次回運営団体の公募を見据えてのグループ全体の底上げを図る意味で、3年目のチャレンジととらえていただけたらと思います。

基本事業について大きな変更はございません。細かく工夫した点をご報告させていただきます。オープンスペースに本棚がありますが、以前より本の寄付や貸し出し希望がありましたので、貸し出しノートを置いて気軽に借りていただけるようにしました。ご寄付いただいた本もこちらできちんと管理していることがわかるようにしました。オープンスペースはどなたでも利用できますので、夏のいつとき避暑地として、また利用者さん同士のおしゃべりの場や待ち合わせ、ご近所の方の休憩場所として多機能にご利用いただいております。

ランチ、喫茶は初年度から手作りにこだわっております。七草粥、ちらしずし、クリスマスランチ、年越しそばなど、アクセントを取り入れています。実際に運営を始めてみて、最初は高齢者向けにと柔らかいものや薄味にこだわっておりましたが、それよりも季節感のあるメニューが好評だということがわかりました。焼き菓子では、さくらケーキ、抹茶

あずきロール、紅茶シフォン、チーズケーキ、チョコケーキなど、定番のパウンドと併せて随時2、3種類用意しております。手作りのしそジュースや梅ジュース、スタッフがリサーチしたハーブティも好評です。また、味噌汁のだしで使った昆布を使って佃煮を作ったり、寒仕込みの味噌にも挑戦しております。

その他事業としましては、1年目はスタッフが中心となって手作り講座などを開いていましたが、2年目は地域の多彩なスキルをお持ちの方による講座が中心となりました。これによって新たな来所者が増えると共に、スタッフは運営に重きを置くことが出来ています。スタッフそれぞれが地域での活動を月見路につなげた事業として、健康講座、仙人体操、ピアノミニ講座などがあります。もともと顔見知りであった知り合いを月見路とうまくマッチングできました。仙人体操はレギュラーのプログラムとして、また、ミニコンサートも不定期でお願いしています。スタッフのスキルを利用したものとしましては、英語初めてのフォニックス、紙芝居などがあります。貸しスペースでは、視覚障害者の情報交換会「いろりドットコム」を定期的にご利用いただいています。そちらからのご要望があり、防災課と連携して、視覚障害者向けの防災訓練を行いました。また、被災地から非難されている母子とそのサポーターの団体「むさしのスマイル」さんには、戦時中に子育てをされた詩吟のボランティア講師の方を紹介して懇親会を開催しました。

実績報告書には挙がっていませんが、ガーデニングボランティアの方々には、1年を通して多大なご協力をいただいております。狭い敷地を有効活用するアイデア、施設に合った雰囲気のお花選び、育て方などをレクチャーいただいております。また、第3中学校からは、花一鉢ボランティアで球根を提供していただいたり、チューリップのプレゼントがあり、華やかになっております。また、地域、中学校からの職場体験など、1年目に比べ、視察、取材、見学が増えました。2年目になって「月刊つきみじ」の効果がじわじわと出てきました。男性がニュースレターを片手に訪れてくださる事例が1年目よりも増えました。爆発的な増加ではありませんが、お友達用にとわざわざ取りに来てくださる男性もいらっしゃいます。潜在的な読者に実際に来ていただけるように、今後も工夫していきたいと思っております。

異世代交流として運営前に乳幼児親子の受け入れを考えていましたが、利用者さん並びに地域の方々より運営当初賛同できないという声も上がりましたので、1年目は控えておりました。現在も専任のスタッフはおりませんが、乳幼児親子さんにぶらりと立ち寄っていただくなど、今では自然な形で交流ができております。新たなスタッフも2名入りました。子育て世代のご近所さんと他施設でボランティアとして実績のある60代の方です。3年目は実直にゆとりを持って運営していきたいと思っております。

【委員長】ありがとうございました。

【委員】運営して丸2年になりましたが、実際に携わってみて、考えていたことと違ったことがありましたら教えてください。

【月見路】先程の報告でもお伝えしましたが、ランチに関しては、運営前の調理実習では、高齢者向けに素材も柔らかいもの、薄味のもの良いと思っていました。また、魚の骨なども丁寧にとっていましたが、今では時々は少し残すようにしています。また、鶏肉も最初は胸肉、もも肉と骨のない部分を使っていましたが、今は手羽先などもみなさんでかぶり笑いながら召し上がってくださっています。

最初のプレゼンでは異世代交流として乳幼児親子さんに来てもらいたいと思っていました。しかし、高齢者施設だと利用者さんに認識されていたため、運営前の声として大きかったのは、「赤ちゃんの声は嫌だ」「家に孫がいてうるさいのにここに来た時くらいゆっくりしたい」というものでした。当初は曜日を決めて受け入れようとも思っていたがきっぱりやめました。しかし、徐々にご近所の方が喫茶コーナーに来てくださるようになって、びっくりしたことに子どもの声が嫌とおっしゃっていた方が、一番赤ちゃんをあやしてくださっています。先日、90歳の利用者の方がお孫さんと曾孫さんと来てくださった際も、みなさん交代であやして和んでくださいました。逆に曜日を固定せず、ふらっと来ていただくことで、異世代交流がうまく出来てきたと思っています。また、これは昨年度の事ではありませんが、今月に入りまして近くの第4小学校の3年生15人が地域巡りということで遊びに来てくれました。利用者さんたちにとってはサプライズでもありましたが、一緒にビデオ体操をやりまして、うるさいと怒られるかと思っていたら、利用者の皆さんもノリノリで、「たまには若い子もいいわねえ。」などとおっしゃっていました。運営前はドキドキでしたが、地域の中で異世代交流ができて良かったと思っています。

【委員】開設前にアンケートを取っていたと思いますが、そのアンケートの中身と今の事とずいぶん違うという点はありませんか？

【月見路】開設前のアンケートは、月見路をご利用されていない方から主にとらせていただいたものでしたので、月見路は入りにくいというお答えがかなりありました。私たちは運営するにあたって異世代交流をアピールしてプレゼンをしましたが、そこに対してご心配の声をいただいたのは、すでに利用されている方でしたので、アンケートに現れたことと、現在の事はあまりリンクしていないと思います。ただ、アンケートを取ってわかったことは、月見路が少し敷居が高かったという印象です。この2年間で月刊つきみじを片手に様子を見に来られた方、お嬢さんと一緒に見せてくださいといらっしゃる方など、興味を持ってくださっている方が増えていると感じています。ガーデニングのボランティアの方が力を貸してくださっているので、もう少し外から見てわかるように入りやすい雰囲気を作りたいと思っています。

【副委員長】いろいろドットコムが視覚障害者の方のサークルということですが、利用者の方が加わるようなことはあるのでしょうか？

【月見路】いろいろドットコムさんは概ね十数名いらっしゃるのですが、貸しスペース事業として行っているので、ガイドヘルパーさんにも聞いてもらいたくない本当の情報交換会



なので、利用者さんはもちろんガイドヘルパーさんも喫茶子コーナーでお茶を飲んで過ごしていただいているという状況です。

【委員長】認知症サポーター養成講座は、25年度の受講者0というのは何か理由があったのでしょうか？

【月見路】2名スタッフが入ったんですが、1名はすでに持っていきまして、もう1名は12月に入ったのでタイミングの問題で受講するタイミングがありませんでした。明後日受講しますので、そうすれば100%となります。

【委員長】貸しスペース事業の実績はどのような感じですか？どのような団体、内容での貸し出しが多いのでしょうか？

【月見路】③その他事業の日付が入っている下の部分になります。アロマハンドトリートメントは概ね月1回、いろりドットコムは3ヶ月に1回、むさしのスマイルさんは不定期に1回お貸ししています。また、夏休みに英語「初めのフォニックス」という地域の小学生から大人までの英語教室がありまして、全部で4団体です。プログラムのない日にお貸しすることになっておりますので、月に2、3回しかありません。

【委員長】武蔵野スマイルやいろりドットコムの内容はどのようなものですか？

【月見路】いろりドットコムは市内の障害者の方の情報交換会で、武蔵野プレイスと高齢者総合センターと月見路の市内3カ所です。毎月交代でやっております。市内いろいろなところに視覚障害者の方がいらっしゃいますので、どなたでも行きやすいように3ヶ所で行っているようです。むさしのスマイルさんは被災地から避難されているお母さんたちとそれをサポートしている方を支援する団体です。先日その団体の方から、戦時中のお話をしていただける方はいらっしゃいませんか？というご連絡をいただき、それをおつなぎする形で貸しスペースをお貸ししました。

【委員長】ありがとうございました。続けてそ～らの家をお願いします。

【そ～らの家】新メンバーになりまして、今年3年目を迎えます。グループ萌黄といたしまして、4月30日に無事総会を終えました。

長くやっておりますと、利用者さんが体調を崩されたり、認知症になられたり、外出ができなくなったり、中には亡くなる方もいらっしゃいました。こういったこともあり、もう少しチラシを配布して皆さんに知っていただきたいと思い、新聞折り込みを考えました。しかし、問い合わせをしたところ1枚3円50銭かかるということでしたので、今まで同様、我々メンバーで頑張っておつなぐと全戸配布をしようと思っています。

消費税のこともあり、利用者さんからやっていけないの？などというご心配の声もありました。4、5月を見てやっていけないようなら値上げをするかもしれませんとお伝えしていましたが、利用者の方が自主的に貯金箱を持ってきて、小銭を入れてくださっています。

先程、月見路の方からもお話がありましたが、毎年3中からチューリップが10鉢ほど届

くのですが、そのお礼として絵手紙を書いて3中にお届けします。それを廊下の一番良いところに飾ってくださってとても嬉しく思っています。

利用者さんで、ご自身はそ~らの家に通っていますが、連れ合いの方の様子が少しおかしいというお話があって、在宅介護支援センターにつながるといこともありました。

土曜日を丸々2年やりまして、ようやく定着してきたと思います。月3回が麻雀、もう1回が開設当初からやっているフラワーアレンジメントということで、麻雀を土曜日に集中しました。良い点は、市内中からいろいろな方に来ていただけることです。これで少しでもそ~らの家の事を知っていただけたらありがたいと思っております。ひとつ困るところは4人1卓なので半端になってしまうことがあります。できるだけ人数を揃えるように努力しますが、それでも当日体調を崩して行けないなどがありまして、その中で話し合いによってメンバー同士がうまく楽しむ麻雀をやっている、これこそ健康麻雀だと思います。

【委員】土曜日を開設して軌道に乗り、市内あちこちからいろいろな方が参加して下さるということでしたが、他にも何か良いことがありましたら教えてください。

【そ~らの家】麻雀以外の日に来ていただくのがなかなか難しい状況です。もう少し他の曜日に広がっていくと嬉しいです。そういった努力もしておりますし、本当に楽しそうにやってらっしゃる姿を拝見するのは嬉しいことです。ただ、土曜日に加え、祭日もやっておりますので、実質的なお休みは年末年始のみで、非常にきついです。そういう中でも頑張って昨年は赤字にならずにやっていたので、良かったと思います。来ている方同士の会話も弾んでおりますし、情報交換の場にもなっていると思います。

【委員】スタッフの方の世代交代があって、3年目になるかと思いますが、スタッフの目的意識と時間帯等がマッチしているとお聞きしましたが、3年経過されてそれはいかがですか？

【そ~らの家】おかげさまで若い方も非常に頑張ってください、シフト上はうまく調整ができます。小学生から大学生までのお子さんがあるスタッフがおりますが、16名という数の中で、うまく調整できております。それから、初めに心配していた味付けですが、今は皆さんに美味しいといわれるほど腕を上げておりますので、心配はしていません。

【委員】土曜日を開所すると赤字になると聞かされておりましたので、プラスが出てほっとしております。基準額を見直す必要があるかとハラハラドキドキしておりました。1点目は、土曜日を開所して黒字化した要因をどうお考えですか？2点目は、その他事業でのインフルエンザ予防接種を利用者15名に行っていますが、医療機関とも連携されているということでしょうか？

【そ~らの家】土曜日はやればやるほど赤字になるのは変わりません。その分平日を頑張っています。土曜日でも2人体制ですが、9時から16時までは2人体制にせず、ずらしております。平日より品数は少ないですが、土曜日でも軽食をお出ししています。平均16人来ていただいておりますが、麻雀をされる方からは嬉しいというお褒めの言葉をいただいております。

ます。

2点目のインフルエンザ予防接種ですが、開設以来、知り合いのドクターに毎月講座を開いていただいていたのですが、ご都合がつかなくなり2年半で終わりました。ただ、インフルエンザの予防接種は続けていただけるとのことでしたので、利用者さんのご要望を聞いて続けております。ご自身の病院もあります、ドクターと看護師さんが来てくださっています。

【委員】インフルエンザの件ですが、武蔵野市内で登録したドクターが接種すると、金額的には補助が出ると思うのですがいかがですか？

【そ~らの家】市から届いている値段でやっております。三鷹市と杉並区も受けられるということで、そちらも受け入れています。また、インフルエンザ予防接種だけでなく、今は三鷹病院の院長先生が認知症の話や介護保険などの講座をやってくださっています。講師料なしでやっていただく中で、毎年来ていただけるのは本当にありがたいと思っています。

【委員】ご本人の支払う額ですが、武蔵野市として決められた金額は4,500円で、負担額は2,200円で済むはずですがいかがですか？

【そ~らの家】その値段でやっております。

【委員】地域に根差した形であれば、医師会としても貢献できるのかなと思いました。通常自費で接種してもらうと、3,000円や4,000円かかることが多いと思います。そのあたりはドクターの側の問題ですが、受ける方が増えた方が良いので、医師会として、他の施設の方についてもバックアップする体制ができるのではないかと思います。

【そ~らの家】このドクターとはそ~らの家開設当初からのお付き合いで、地域に根差すドクターになってほしいということで、講座を2年半やっていただきました。そのあとも引き続きインフルエンザ予防接種を行っていただいているということです。

【委員】その他の事業もバラエティに富んでいますが、利用者向けのリトミック教室というのは地域向けとなっていますが、対象はお子さんですか？

【そ~らの家】親子のリトミック教室で地域向けです。

先日、東保育園の年長さんが来てくださって、利用者さんと昔遊びをやりました。その写真を保育園に貼りましたら、親御さんが喜んでくださったということで、今後も続けたいと思っています。

【委員長】昨年度は認知症サポーター養成講座は未受講ですね？

【そ~らの家】すでにほとんどのスタッフが受講済ですが、監査の男性2名が未受講です。

【委員長】ありがとうございました。

## 第2グループ（あおば、川路さんち、関三倶楽部、きんもくせい）

【委員長】では、あおばお願いします。

【あおば】25年度あおばは、当初9月までということでした。しかし、5月末には25年度いっぱいに変更になり、今までの12年間の集大成と思いながらスタートしました。預かり、ひろば事業は毎日たくさんの親子、また、新規登録が多く、あっという間に1年が過ぎてしまいました。25年度の預かりでは、待機児童になれないパートさんや学生さん、祖父母に預けている、自営業などの預かりが増え、また、障害児等の預かりも増えました。例えば、祖父母に預けているという方については、毎日毎日小さいお子さんと丸々一日過ごすのはきついということで、あおばと併用する方などが増えました。しかし、仕事でのお預かりの方ばかりを受けていると、その他の子育てに不安を持っている方やリフレッシュその他いろいろな事情での預かりができないという現象も起こり、お仕事の方、その他の方の振り分けに四苦八苦しました。

また、あひる事業では、自宅で子どもと2人で遊べないという保護者が増えてきていることから、自宅にあるものがちょっとしたヒントで楽しく遊べるものになるということからスタッフが保育室のいたるところに作り、皆さんに楽しんでもらいました。また、あひる事業では、不安を抱えた保護者の方々からいろいろな話をたくさん聞きました。様々な不安を抱え、子どもに手を出してしまいそうになった時に、あおばでちょっと話をさせてもらうだけでとても安心感があつたというお話をたくさんいただきました。

支援講座も毎回申し込みが多く、この申し込みの振り分けも大変でした。周年行事も24年度から開設日を挟んだ1週間をひろば事業無料開放とし、中2日は歌のお兄さんなど地域のゲストを呼んで行いました。どの日もたくさんの親子が遊びに来てくれて大盛況でした。以上です。

【委員長】ありがとうございました。では、どなたか質問はございますか？

【副委員長】25年度の延べ利用者数が6,382名ということで、いろいろな部分で増えてきているようですが、あおばとしてのキャパシティは限度に近づいているという印象でしょうか？それとも、もっと受け入れられるという印象でしょうか？

【あおば】あおばのスペース的には限度に近くなっているかもしれませんが、私たちひまわりママの気持ちとしては、まだまだご利用したい方たちがたくさんいらっしゃるだろうと思っています。そういった方たちをどのように預かっていけるかが毎年の課題となっています。

【委員】子どもを預けるニーズには、仕事をしている場合と家庭保育をしているが不安を持っている場合、という違ったパターンがあると思います。仕事目的で短期で預かるという方も出てきていると思いますが、不安やリフレッシュを理由に預ける方の人数や割合はどのくらいでしょうか？

【あおば】基本的にフルタイムで仕事をされている方は保育園に通います。フルタイムでない方は、点数の関係で保育園に入れられない方がいらっしゃいます。その中に、もともと仕事をしなくても良いが、仕事をしないと預かってもらえる場所がないことから、わざわざ

仕事をするという方が最近増えてきています。そういったときに、私たちのように短期で預かるところ必要となってきます。こういった場所がなかなかないということから、その割合が少しずつ増えてきています。今は仕事で預かる方が6割くらいです。その中には、リフレッシュで預けたいけれど、パートであっても仕事を持たなければならないという方もいらっしゃいます。6割とはいえ、リフレッシュや悩みや事情でという方もいるので、はみ出てしまっていますが、6割6割くらいという印象です。

【委員】お仕事で保育園に預けている方でも不安はあると思いますが、そういう方はいかがですか？

【あおば】あおばは土日も開所しておりますので、仕事で預けて不安のある方は土日を利用されますし、土曜日の利用が意外と多いです。しかも、普段保育園に行かれていますので、長時間預ける方が多く、土曜日は負担が大きくなっています。

【副委員長】障害児の預かりの実態はどのようなものですか？

【あおば】障害児を預かるという場所が本当ありません。一度、障害児を預かっているグループの方があおばにお見えになりました。そのグループは施設型を持っていないので、どうしても外を出歩く状態になってしまう。それでも、雨が降ったときなどに使える場所もないというご相談を受けたことがあります。そういうお話を聞いて、同じお子さんということで、障害の程度にもよりますが、必ずヘルパーさんがきちんと付いて見ていてくれれば、遊びに来ていただいて構いませんとお伝えしました。

武蔵野市には障害児を特別にお預かりしている東小学校・幼稚園がありますが、土曜日の保護者会にお子さんを連れて行ってはいけないそうです。その時に預かってもらえるところがないということであおばにご相談があります。私たちは障害児の専門ではないので、見せていただいて、軽症であって保育士と1対1で付けられるようであればお預かりしています。最近、こういったケースをすべて断ってしまうとその方たちの行き場所がないというのが強く感じられるので、私たちも選択して預かれる範囲で預かっています。それが最近は口コミで広まってしまったのか、あおばに行けば何とかしてくれるということで増えてきています。ただ、ある程度制約を付けています。

【副委員長】ヘルパーさんが必ず付き添わなくても良いということですか？

【あおば】障害児を預かるグループが行くところがない時に、ひろば事業に立ち寄っても良いですかということです。ヘルパーさんがきちんと付いていれば立ち寄っても構いませんということです。

【委員】今年もインフルエンザが流行っていますが、そういうお子さんを預かるということもありましたか？

【あおば】あおばでは病児の預かりはやっておりません。病児関係で急性期でなければ、運営団体ひまわりママの方で、病児保育室を持っておりますのでそちらに行ってください。

【委員長】ありがとうございました。続いて、川路さんちをお願いします。

【川路さんち】川路さんちは、昨年 11 月から 15 年目に入りました。昨年暮れから今年度にかけて、開館当時からいらしていた高齢の方が次々とお辞めになりました。一番高齢ですが、とてもお元気で杖もつかずに歩いて通ってきて、他の利用者からも尊敬されていた方がいらっしゃいました。テンミリオンハウスの 10 周年記念誌の表紙を書いてくださった方ですが、この方はお一人暮らしで、夜中に調子が悪くなった時に、これはみんなが困ることだと、ホームに入る決心をされて、川路さんちをお辞めになりました。利用者の皆様もショックを受けて、これが原因だったのかはわかりませんが、98 歳の方も今年の初めからしびれがあって、手足がうまく動かないということで、少し休まれています。コーラス参加者で黒 1 点の 95 歳になる男性の方も来られなくなりました。私たちにとって男性はとても貴重なので残念です。このように、90 歳を超えた方、90 歳に近い方が多くお辞めになって非常に残念です。

日常の川路さんちでは、2 月に先生方に見ていただいたとおり、楽しく自由に時間を過ごされています。先日認知症予防のテレビ番組をやっていましたが、予防には第 1 に口を動かす、おしゃべりをする、食事をする、第 2 に手先を動かす、編み物や刺繍などみなさん好きでなさってます、第 3 に足を動かす、皆さん歩いて通ってらっしゃるので、川路さんちは本当に認知症予防になっていると思いました。プログラムのある日は、また雰囲気が変わって、書道の時にはシーンとして真剣な雰囲気で行っています。そんな 1 年でした。

話は変わりますが、10 年ほどスタッフをやっていた方が家を建て替えると同時に居場所を作るということで、3 丁目で川路さんちでのノウハウを活かしつつ、ご自分たち夫婦の考えを盛り込んで、新しい居場所を作って、もう 2 年になります。とても大切なスタッフでしたので川路さんちにとっては残念でしたが、地域のことを考えるとこれは素晴らしいことだと思っています。

【委員長】ありがとうございました。どなたか質問はございませんか？

【委員】長く通われていた方がいろいろな理由で辞められているということですが、今は少し利用者が少ない状態でしょうか？気落ちされている方などもいらっしゃると思いますが、世代交代の中で何か配慮していることがありましたらお聞かせください。

【川路さんち】今まではあまり人数が増えるのも良くないかと思い、募集も消極的でした。今後は、少し積極的に地域のコミセン便りや福祉の会のお便り、町会のお便りなどにスペースを取っていただき宣伝しようと思っています。

【委員】プログラムにもよると思いますが、川路さんちは一番古いので、利用者の平均年齢もそ~らの家と並ぶくらいの 82 歳、83 歳で、くるみの木の 76.5 歳とは 10 歳くらい違います。在宅介護支援センターと連携して、ADL や認知機能の低下した人は、介護保険のデイにというようなスムーズな移行はなかなか難しいでしょうか？

また、昭和 50 年代から銭湯を利用して行っている不老体操もそうですが、年齢層が 90 歳くらいの方から 65 歳くらいの方までで ADL にばらつきがあり、男性の脱衣所と女性の脱衣所で 2 つのグループに分けて行っています。同様に、テンミリオンハウスも 10 年くらい経つてくると、プログラムを若年と高年で分けた方が良いのか、一緒に行った方が良いのか、何かご意見があれば教えてください。

【川路さんち】ご高齢の方にはあまりプログラムは好まれないので、初めはプログラムなしでやっていました。ただ、若い方は編み物や書道がしたいという声が大きくなったため始めましたが、毎週は不可能なので、月に 2 回ずつしか行っておりません。特にコーラスはご高齢になるとついていけないので、プログラムが始まる前にお帰りになったりしています。書道も手が震えてできないということで、隣の部屋にいていただきますが、耳が遠い方同士なので、おしゃべりをするとき大きな声でお話することになります。書道の時などは特に静かなのでおしゃべりもしづらく、じっと編み物等をやったり、少しうとうとされています。でも雰囲気が良いのか、お帰りになる方は本当に少ないです。

在宅介護支援センターとは、こちらで受け入れられないと思うと連絡をして、もう無理かもしれないから高齢者総合センターのデイにお連れしようかといった相談をしています。長く通っている方ですから、朝になるとつい川路さんちに来てしまうこともあり、センターに連絡をして、迎えに来てもらう。そういったことが 2 回程ありました。在宅介護支援センターとの情報交換会では、気になる方を挙げて、お互い情報交換をしています。

【委員】介護保険を利用されている要介護 1 以上の方は、何人くらいいらっしゃいますか？

【川路さんち】おそらく 5、6 人だと思います。今、登録のし直しをしているところですので、はっきりと出ましたら、お知らせします。

【委員】介護保険で使える部分と使えない部分があって、市町村で行う事業が増えてくる可能性があります。武蔵野市では昔からその狭間、なかなか介護保険を使えない方たちが使えるような形でテンミリオンハウスが発展してきたと理解しています。そういう方たちの受け皿としてのテンミリオンハウスという位置づけがこれからもできるかどうかというのは、今のテンミリオンハウスを運営している方々が今後もそういった方を受け入れていただけるかどうかだと思いますし、それができなければ、市として新たな事業をやらなければならないと思います。実際に介護保険を持ちながら、介護保険事業に行けない方、そういうレベルではないとご自身が思っている方などが、今は混在している状態だと思いますので、今のうちに把握しておいた方が良いと思います。

【川路さんち】今のところは、介護 2 の方が一番重かったと思いますが、長年通ってらっしゃるので何の不都合もありませんでした。ただ、いきなり介護 2 の人を預かったり、要支援 1、2 の人を受け入れるとなると難しいと思います。

【委員】徐々に低下していってご自身も自覚がない。そういう方は、そういうところに行くのが習慣化しているので、逆に新たなところに行けないという方も出てきてしまう。そ

ういったところをうまくつなげていくようなシステムが今後出来ていかないと厳しいと思っています。

【川路さんち】専門のスタッフはいないので、ヘルパーなどの専門を増やさないといけないとなると、今のように半分ボランティアでというわけにはいかないと思います。

【委員長】ありがとうございました。では、関三倶楽部お願いします。

【関三倶楽部】関三倶楽部の25年度は、大きな事故もなく無事に過ごすことができました。ただ、皆さんのお話のとおり、関三倶楽部も皆さんご高齢になられて、亡くなられた方、施設に入られた方もいらっしゃいます。でも、大体ほとんどの方が定期的お元気に利用しておられます。反省点は日々に追われて、レッツトライの回数がなかなか思うようにできなかったことです。また、私事ではありますが、後半体調を崩して、他のヘルパーに大変迷惑をかけてしまいました。今までそうしなければと思いながらずるずると来てしまったので、自分の年齢も考え、若手のヘルパーに引き継いでいかないといけないと感じました。

私たちの仕事は、利用者様の一日の生活を心地よく穏やかに過ごしていただくことのお手伝いです。単純な仕事で資格を持っている方はたくさんいらっしゃいますが、雰囲気的に合う、合わないがありまして、合う人材を探したり、条件を考えて人を探すのはなかなか難しいと感じているところです。徐々に若返りを図って、引き継ぎといっても細かいことが多いので、時間をかけてゆっくり引き継いでいきたいと思っております。

【委員長】ありがとうございました。質問はございますか？

【委員】デイとショートに訪問介護、アウトリーチのサービスを加えると、国が進めている小規模多機能の事業がそのままできる、同じ機能を持たせることができると思います。関三倶楽部の持っているデイとショートにパーソナルケアのアウトリーチを加えて、総合的なトータルサービスのようなもので、小規模多機能と同じような機能を持たせることが可能なかどうかをお聞かせください。

【関三倶楽部】小規模多機能の場合は看護師などの医療系は入らないでしょうか？

【委員】必須ではありません。

【関三倶楽部】テンミリオンハウスは1000万円の補助がありますが、小規模多機能になった時にどれだけの補助が出て、どこまでの範囲で行うのかなどが問題だと思います。事務所が本町にあって、関三倶楽部が関前があるので、これに関しても事務所の近くにあれば、かなりいろいろなことができると思いますが、今は離れているがゆえにこれが限界だと感じております。

【委員】若い人に引き継ぐことで苦勞されているようですが、平成25年度のスタッフ退職者が4名というのは、仕事の大変さが影響しているのでしょうか？

【関三倶楽部】仕事の大変さよりも、初期からのスタッフが高齢となり続けるのが難しくなった方、引っ越された方、家庭の事情でヘルパーを辞めた方などです。ただ、やはり仕



事内容や会話の事がございますので、若手とは言っても普通の若手よりも少し年齢が高い、30代後半から40歳くらいの方でないと思えます。台所も含め、日常生活の普通の食事の支度からすべてオールマイティに苦痛なくできる方を探すというのも大変です。介護は抜群だけれども台所は嫌など、人それぞれです。雰囲気というのも正直ありまして、いくら仕事をバリバリやる方でも、雰囲気が関三倶楽部と合わない方も中にはいらっしゃるのでは難しいなと思えます。

【委員】ありがとうございました。大変よく理解できました。大変だなと思えました。

【副委員長】その他事業のレッツトライやクリスマス会で、対象が地域住民とありますが、どの程度いらっしゃるのでしょうか？

【関三倶楽部】人集めがとても大変で、ポスターを貼ってもチラシを配っても、申し込みがあるわけではないので、関前の福祉の会を頼っています。福祉の会やコミセンの方たちが積極的に参加してくださるので成り立っている感じです。

【委員長】ありがとうございました。では、続いてきんもくせいをお願いします。

【きんもくせい】きんもくせいは、昨年公募の対象となりまして、次の5年間の採択をしていただいた最初の1年となりました。開設から11年目を迎え、利用者の方々に変化が出てきています。例えば、昨年の暮れあたりに、それまでお元気だった方が立て続けにおいではなれなくなった時期がございます。お一人は90歳の女性で、毎日ランチにお見えになっていた方が、带状疱疹になって物を噛むことが出来ないということで、1ヶ月ほどリハビリを頑張って、1ヶ月半後くらいに復帰されました。もう一人は88歳の男性で、3月頃お電話があって、実は暮れに脳梗塞で倒れていたとのことでした。その後、きんもくせいのランチを励みにリハビリを行って、食べる速度は遅くなったものの、4月くらいからはほとんど以前と同じような形で通っていらっしゃいます。また、知的障害をお持ちの方で、電話の声が弱々しくて心配をしておりました。一度入院されましたが、ようやく回復されて、今は依然と同じようにいらっしゃっています。去年から今年にかけて、レギュラーの方が何か月間か来られないということが続きまして、開設当初80歳くらいだった方も90歳くらいになり、何人かは亡くなられたり、施設に入所されたりということで、10年というのは一つの節目だったかなという気がしております。

在宅介護支援センターとの情報交換は3ヶ月に1回桜堤ケアハウスと行っております。基本的にはケース検討ですが、いろいろなアドバイスをいただきます。こちらが気になる方、例えば予約を頻繁に忘れたり、食事を持ち帰ろうとされる方などの事例について、打ち合わせを行っています。毎回10人くらいの方についてお話をすると、半分以上がケアハウスも使っているということがわかります。要介護1や2の方もいらっしゃいますが、きんもくせいから在宅介護支援センターに移るというよりも、併用しているのではないかと思います。こういったアドバイスをもとに、昨年からは登録の際にケアマネジャーさんの

お名前を聞いたり、今年からは独居、同居について聞いております。認知症の方についてはどのように聞いたら良いかわからないので把握しておりませんが、こういったことも進めております。

【委員】通えなくなった方の追跡調査はどのようにされていますか？一定程度通えなくなったらされているということでしょうか？

【きんもくせい】いろいろなケースがありますが、親しい方の場合、例えば他県の施設に入られたということでご家族からご連絡をいただき、きんもくせいからお手紙を出したり、手紙をいただいたりなど、代筆という形ではありますが手紙のやり取りをしているケースはあります。

【委員】ケアマネジャーなど、その方の事を深く知るようになって、何か具体的なメリットは出てきていますでしょうか？

【きんもくせい】例えば、利用者は境や桜堤の方が多いのですが、中には八幡町や緑町の方もいらっしゃって、レジ袋に残ったご飯を入れて持ち帰ろうとされることがありました。遠いので無理かと思いましたが、桜堤ケアハウスに相談しましたらネットワークが出来ていて、ケアマネさんがいらっしゃるということがわかったので、連絡を取って認知症の事や具体的なアドバイスをいただきました。こちらは資格があるわけではありませんし、精神的にも、また、具体的な対応としても大変助かりました。

【委員長】他にはございませんか？

【委員】楠本委員の質問と重なりますが、今までずっとレギュラーで通っていた方が、1週間、もしくは2週間、顔が見えなくなった場合の対応については、何か基準のようなものはありますか？例えば、1週間お見えにならないと、ご家族か緊急連絡先かケアマネに連絡をするなど。要介護認定を受けている方はケアマネがいると思いますので、ケアマネの登録、受けていない方は緊急連絡先を登録されていると思いますが、来なくなった後の対応の基準があればお聞かせください。

【きんもくせい】基準はありませんが、気になった時に話題にしたり、お電話をしてみたりということはありません。また、お近くの方ですと、福祉の会や民生委員さんと常日頃連携を取っていますし、情報交換の際にも民生委員さんや社協の方に入っていただいています。地域の方であれば、地域のイベントの時に民生委員さんに寄っていただいたり、福祉の会の方が声をかけてくださることがあります。嬉しかったのは、しばらくお見えにならなかった方の家が自分の通り道にあるということで、あるとき自転車が止まっていたので訪ねてみたところ、ご本人がいらっしゃって、今は行けないけれどもまた行きますとおっしゃっていただいたという連絡がありました。普段から話していると、利用者の方もいろいろ情報を入れてくださったり、プログラムの仲間の方が声をかけてくださったりというかたちで、ケースバイケースで連絡を取りあっています。

【委員長】非常に大事なことだと思います。他に質問はございますか？それでは、どうも

ありがとうございました。

【委員長】では、続いて最後の議題に移ります。今それぞれの運営団体から報告がありましたが、提出された事業報告を承認するというところでよろしいでしょうか？

→委員一同了承。

## （２） その他

【事務局】その他の議題はございません。今年度は公募もございませんので、次回は12月に行う来年度の事業計画の採択評価委員会となります。

【委員長】では、本日の委員会を終了します。

## 4 閉会

以上